２０２５年度　岡山大学大学院法務研究科
法学既修者入試Ｂ日程　試験問題

刑事法系（刑法、刑事訴訟法）

＜解答上の注意＞

１．この問題冊子は、表紙を含め４枚である。
２．問題には、問題１（刑法）と問題２（刑事訴訟法）がある。配点は、問題１が60点、問題２が40点である。
３．表裏に解答欄がある解答用紙は、２枚が配付されている。各問題ごとに解答用紙１枚を使って解答すること。
４．解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し、また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお、整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
５．試験終了後、問題冊子及び下書用紙は持ち帰ること。
６．解答の際は、黒又は青のボールペンを使用すること。
７．六法は貸与品なので、折り曲げや書込みをしないこと。なお、書込み・汚損等がある場合は申し出ること。
８．試験終了後、指示があるまで席を立たないこと。
９．その他は、すべて監督者の指示に従うこと。

【問題１】

次の各〔設問〕に答えなさい。解答用紙の冒頭に「問題１」と記入すること。解答順序は問わないが、設問番号を記入すること。また、２問とも解答すること。

〔設問１〕（配点３０点）

甲は、強盗目的でＡを鉄パイプで殴打し、気絶させたところ、甲の友人の乙が偶然その場に現れた。 甲が強盗目的でＡを殴打し気絶させたことを知った乙は、自分も金品が欲しくなり、甲とともに、Ａの財布を奪った。

以上の事実について、甲と乙の罪責を論じなさい（特別法違反の罪を除く）。

〔設問２〕（配点３０点）

丙は、私立Ｂ高等学校の卒業生丁からその卒業証書を借りてきて、就職先に提出するつもりで、その卒業証書の丁の氏名が記載された箇所に丙の氏名を記載した紙片を重ね、これをコピーして、丙の卒業を証明する卒業証書であるかのような外観のものを作出した。

なお、卒業証書（縦書き）には、卒業生の氏名の左側に、「右の者は本校所定の全課程を修了したことを証する　Ｂ高等学校長Ｃ」と記載されている。

以上の事実について、丙の罪責を論じなさい（特別法違反の罪を除く。）。

《問題１　以上》

《次頁に続く》

【問題２】

次の【事例】を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。解答は、【問題１】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題２」と記入すること。

【事例】

１　警察官Ｐらは、警察官の制服を着用した上、１１月２日午前１時頃、Ｏ市内をパトカーで走行しパトロールをしていた。すると、住宅街にある公園のベンチに座っている男（後に「甲」と判明した。）を発見した。Ｏ市内では、住宅街での違法薬物の密売事件が発生していたため、Ｐらは、甲の様子を確認することにした。

２　Ｐらが同公園近くの路上にパトカーを停め、同車を降りて歩いて甲に近付いて行ったところ、甲は、Ｐらに気づいて慌ててベンチから立ち上がり、Ｐらから離れようとして早歩きでその場から立ち去ろうとした。Ｐらは、小走りで甲に近付き、甲に「どうしましたか。なぜ我々の姿を見て逃げようとするのですか。」などと声をかけ、職務質問を開始した。

３　甲は、その場に立ち止まったものの、Ｐの問いかけに答えようとせず、下を向いて意味不明なことをぶつぶつとつぶやいていた。このとき、甲は半袖のシャツと短パンを着用しており、Ｐは、甲の短パンの右前ポケットが不自然に膨らんでいることを確認した。

　Ｐは、甲に対し「何のためにここにいるのですか。」、「お名前を教えてください、身分証明書を持っていますか。」などと声をかけたが、甲は何も答えずに下を向いていた。Ｐらが質問を続けながら甲の様子を観察していると、甲は気温が低いにもかかわらず大量の汗をかいており、違法薬物常用者の特徴がみられた。そこで、Ｐらは、甲が何らかの違法薬物を使用し、また違法薬物を所持しているかもしれず、確認する必要があると考えた。

４　Ｐは、甲に対し、「持ち物を見せてください。短パンのポケットに入っている物を出してください。」と申し向けたが、甲は「いやだ。それは困る。」といって拒否した。そこで、Ｐは、「あなたがおかしなものを持っていないか確認します。」と述べて、強引に甲の短パンの右前ポケットに手を入れようとした。甲はこれに激しく抵抗したが、Ｐは、甲の抵抗を振り切り、そのポケットの中に手を入れ、その中の物を取り出した。すると、取り出された物は覚醒剤様の白い粉末がわずかに入ったビニール袋と、使用済みの注射器だった。

〔設問〕（配点４０点）

事例中の４におけるＰの処分の適法性について、具体的事実を摘示しつつ論じなさい。なお、事例中の２以降の職務質問は、警察官職務執行法２条１項の要件を満たすものとして解答しなさい。

《問題２　以上》

《刑事法系問題　以上》

【出題趣旨】

【問題１】刑法

〔設問１〕承継的共同正犯の肯否と強盗罪の承継的共同正犯の成否が問題となる事案を素材として、刑法総論の体系的理解と事案処理能力を問うものである。

〔設問２〕コピーによる原本の改ざんと私文書偽造罪の成否が問題となる事案を素材として、刑法各論の基本的な理解と事案処理能力を問うものである。

【問題２】刑事訴訟法

本問は、所持品検査の適法性について、所持品検査の許容性および所持品検査の適法性の判断基準に関する判例の立場をも踏まえながら論じ、事案を解決することができるかを問うものである。